

平成29年4月

第4号

京都教育大学
附属京都小中学校
東櫻同窓会

東櫻だより

〒603-8163

京都市北区小山
南大野町1番地
TEL

(075)431-7131

発行人 堀場 厚会長

題字 岡田直樹学校長

印刷 中西印刷

——同窓生のつどい開催に向けて——



東櫻同窓会ホームページアドレス <http://www.touou-dousoukai.jp/>



ご挨拶

同窓会会長 堀場 厚

東櫻同窓会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨今の世界情勢を見てみると大きな変化のうねりを感じます。反グローバル化やポピュリズムと排他主義の台頭、民族対立の激化などが顕在化し、個々の思想が複雑に影響し合う時代に突入しています。そうした中で、社会全体がポピュリズムに流される傾向にあり、本来あるべき、将来に対する展望や大きな理想を語るリーダーの不在を感じます。その結果、国家レベルの大きな取り組みや事業が、いとも簡単に廃止されたり、素人的な発想の取り組みが準備なく実行されたりしています。

国家規模だけでなく、企業においても経営レベルのスケールが小さくなっていることを危惧しますが、これからは優れたリーダーシップによる、既成概念を打破す

るチャレンジングな行動が必要です。一人ひとりの主張が尊重されるダイバーシティの時代において、多様なニーズに応えるべく、個々の価値観を受容しながらリードしていくことは簡単ではありません。このような時代にこそ真のリーダーが必要です。

その意味で日本における教育、特に、小中学校での教育や指導は、ますます重要な役割を担っています。インターンシップ制度を含む多様な教育制度、指導方法、人材養成の必要性を最近強く認識しています。附属京都小中学校において、素晴らしい次世代のリーダーが育まれることを心から期待しています。同窓会会員の皆様には今後も附属京都小中学校を温かく見守っていただき、尚一層のご協力、ご支援をよろしく願います。



ご挨拶

学校長 岡田 直樹

東櫻同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清祥のことと存じ上げます。また平素より本校教育活動にご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本校は平成一五年より六年間「九年制義務教育学校設立に向けた教育システムの開発」というテーマで文部科学省研究開発学校指定を受け、「小学校」「中学校」の枠を越えた新しい学校作りに向けた実践を進めてきました。そして、平成二二年度より、九カ年を四―三―二区分とする小中一貫教育学校として発足しております。

この度、平成二八年四月の学校教育法の改定により、「義務教育学校」が制度化されたことを受け、京都教育大学と協働して、平成二九年度より義務教育学校化する事を目指して準備をすすめてまいりました。この四月一日より「義務教育学校」へと移行いたし

ました。

義務教育学校化により、九カ年の教科カリキュラムをより柔軟に変更する事が可能となり、新しい時代に求められる資質・能力を目指した教育研究がより迅速に推進でき、ひいては生徒の更なる能力向上に大きく資することとなります。また法令上は小・中に分かれている事による教育上の諸事業や事務等の煩雑さも解消され、名実ともに一つの学校として発展できると考えています。

東櫻同窓会会員の皆様におかれましては、この小中一貫の流れを受け、小・中の同窓会を一つにするなど既に多大なご協力をして頂いております。厚く御礼申し上げますとともに、今後とも尚一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ご挨拶

同窓会副会長 大倉 治彦

東櫻同窓会の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃は同窓会活動と母校の教育活動に、ご支援ご協力頂き誠に有難うございます。

早いもので、小中が一つになったの新しい同窓会が発足して六年になります。また、今年は三年に一度の「同窓生のつどい」が行われる年にあたります。一人でも多くの卒業生の参加を得て、盛大な会となりますよう期待しております。幹事担当の学年の皆様には、会の企画や当日の運営など、種々お世話になります。がよろしくお願ひ致します。

私は附属小学校昭和四十六年卒、附属中学校昭和四十九年卒で、中学校を卒業してから四十年以上になります。男の子が三人いて、長男と三男が附属にお世話になりました。自身の卒業後しばらくは学校



ご挨拶

同窓会副会長 鈴木 順也

東櫻同窓会のみなさまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、近年の経済・文化のグローバル化や技術革新の急速な進展を見ると、未来の社会を担う世代への教育のあり方が根本的に変化すべきと誰もが考えるのではないのでしょうか。既に多くの人々が指摘しているとおり、グローバル社会において英語は必要不可欠の能力です。私たちは、学校で英文法を熱心に学んでいるにも関わらず、一方では英語を実践的に使うことができないという奇妙な状況から一刻も早く脱却する必要があると見做す。特に学習指導要領の改訂で議論されているように、英語学習の開始時期を早めることは有効と思われれます。また、完璧でないと恥ずかしいという英語への心理的な障害を取り払う訓練も必要です。小学校で英語の学習に力を入れると日本語が疎かになるとの危惧があります。他国の人々が複数の

言語を習得している実例を見ても、心配は不要です。むしろ、英語を話せない日本人がグローバル社会で埋没していくことへの深刻な危機感を持つべきだと思います。グローバルコミュニケーションが活発化すると、自国の事情を明確に説明できる能力が問われます。それは伝統文化や観光地の案内情報に限らず、現代社会におけるわが国や日本人の立ち位置についての考え方を発信する見識です。また多様性への理解と持続可能な社会について考える能力も、子供たちがグローバル社会で生きていくために必要です。

に行く機会はなかったのですが、子供が附属に通うようになってきたつなかりが復活し、長男や三男の時に育友会の役員を務めさせて頂きました。生徒として見る学校と保護者の立場から見ると学校とは全然別物で、特にPTA役員として附属の先生方と接することにより、教育現場の抱えている問題点を認識したり、公立学校にない附属の良さが改めて判ったりと、ずいぶん勉強になりました。私が通っていた頃の附属は、クラス対抗のスポーツ大会や合唱・合奏コンクールなど行事の多い学校でしたが、附属の育友会もそれに輪をかけて行事が多く、これが附属の伝統なのかなと思っています。

同窓会会員の皆様には附属小中学校の発展のため、今後も益々のご支援をお願い致します。

同窓会会員の皆様には附属小中学校の発展のため、今後

附属京都小中学校

「東櫻同窓生のつどい」の開催に向けて

実行委員長 梯 大輔

六月二四日（土）、京都ホテルオークラにて、三年に一度の「東櫻同窓生のつどい」が開催されます。今回は、小学校昭和六二年、六三年、平成元年卒、中学校四二期、四三期、四四期卒の幹事学年で実行委員を務めさせていただきます。

私にとっては、前回の「同窓生のつどい」が卒業後初めての出席でした。想像以上の盛り上がりを感じ、そうそうたる諸先輩方がおられることを知り、幹事学年の先輩方が頑張っておられる様子を見て、感動しきりの一日でした。

私達幹事学年の最初の仕事は、「同窓生のつどい」終了後間もなく行われた、三年間で行うべき事項の引継ぎでした。資料に加え、前幹事学年を含めた常任理事の方々が当時体験された良かった点、課題点などを頂戴しました。我々がすべきことは、「東櫻だ

より」第三号、第四号の発行と、「東櫻同窓生のつどい」を企画、運営することです。「東櫻だより」については、小学校平成元年卒の七里直樹君に編集委員長をお願いしたいへん尽力いただきました。また、今号では小学校昭和六二年卒の青松竜好君を中心に、特集記事を仕上げていただきました。

附属で経験した特別な行事や校内の謎について、私たちの目線です過去から現在を振り返り、我々卒業生が誇りに思っている『附属らしさ』に迫りました。読んだ方に当時は懐かしんでもらうことはもちろん、「附属の卒業生でよかった」と思ってもらえるような特集です。

また、今回のつどいでも、この企画を活かしたアトラクションを取り入れ、皆様それぞれの当時を思い出し、話題作りのきっかけとなるよう試みております。ぜひ、ご一読よろしくお願いいたします。

ひ、ご一読よろしくお願いいたします。

これからは、「東櫻同窓生のつどい」開催に向けて忙しくなります。人手も知恵も必要となります。

幹事学年の皆様には、この場をお借りして、準備・企画もしくは当日だけでも結構ですので、お手伝いをよろしく願います。

今回は、『つどい』という意味を見つめ直し、『恩師』『同窓生』『同級生』との交流の充実をはかりたいと考えております。例えば、ご出席されている恩師が分かるように、丁寧に紹介する時間を設けます。三年に一度の貴重な機会なので、散会してから後悔がないように配慮していきます。

その重きを置いている交流時間では、小学校昭和六三年卒でピアノのハタヤテツヤ君ご協力のもと、食事や歓談に贅沢なひとときを与えるライブ演奏をしていただきます。ぜひご堪能ください。

そして、先述にもありますように、今号特集の「附属の謎に迫る」を掘り下げた企画により、「今」と「昔」を感じていただきます。さらに、今回も恒例の福引き大会

を予定しております。

もちろん、おいしいお料理とお飲み物もご用意させていただきます。どうぞ、多くの皆様にご参加いただき、楽しいひとときをお過ごしください。

今回も土曜日の開催ですので、ご遠方からのご参加も期待しております。各学年の理事の方を中心に、お友達をお誘いいただいて、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。また、次期幹事学年の小学校平成二年、平成三年、平成四四年卒、中学校四五期、四六期、四七期卒の皆様。まずは、改めて同期の仲を深めるためにも、皆で集って参加して、つどいの雰囲気や流れを経験してください。これだけは口伝することが困難ですので、よろしく願います。

それ以降の卒業生の皆様も、気軽に一度参加されることをお勧めします。新しい附属の楽しみ方や繋がりがきっと見つかります。

六月二四日京都ホテルオークラ「晩雲の間」で皆様とお会いできることを願って、ご挨拶とさせていただきます。

「義務教育学校」への移行を前に 「学友会」精神の継承

中高等部副校長 垂井 由博

本校は、ご承知のとおり、二〇一三年度より取り組んできた小中一貫教育システムの研究と構築の成果をもとにして、二〇一四年度より義務教育九か年を四一三二区分制とした小中一貫教育学校として発足しました。旧来の小中両校舎を共有しながら、教職員も九か年で一体化し、義務教育九か年を通して子どもの育ちを見つめ、より効果的な教育を行う研究や様々な取組みを、全国に先駆けて、実践しています。

二〇一四年度からは通常学級における中学校生徒募集を取りやめ、昨年度の九年生は、本校で九年間を過ごした生徒だけで構成する初めての学年となっています。

これまで、小中一貫教育に関して、旧来の小中がそれぞれ大切にしてきた伝統的行事や生徒活動も、その意義を継承しつつ、四一三二区分制に合わせて様々な学

年の組み合わせて行う行事や活動に再編しています。本校において旧中学校時代からの精神を継承する「学友会」も、現在は五・九年生の五つの学年生徒で構成されていますが、学校生活や行事など様々な生徒活動を、生徒自ら企画・運営し、協議や討論を重ねていく「自主」「自律」「自治」の精神は、見事に受け継がれています。

小中に分かれていた時代には見られなかったことですが、新しく学友会の会員となった五年生が、九年生のリーダー像を目の当たりにして、その姿に憧れを持ちながら、自らも積極的に学友会活動に参画しています。その中で、親離れの始まる五・六年生の成長ぶりには目を見張るものがあり、それは小中に分かれていた頃には見られなかった姿です。

「合唱コンクール」や「球技大会」(旧称クラスマッチ)なども、現

在は、五・九年生の五つの学年で構成する行事となっています。このときも、五年生の存在を視野に、五年生にもわかる言葉で説明してともに討議する八・九年生の姿を見ると、四一三二区分制のシステムが、八・九年生の成長にも想定外の良き効果をもたらしているようです。

昨年度の本校の「研究発表会」の折、学友会では生徒発表として「学校紹介」を行いました。企画・立案から内容の検討、原稿の作成、進行の協議から練習まで、本校で九か年を過ごした生徒で構成する初の学年となる九年生を中心に、

日常の学友会活動と同様に、生徒自らの手によってすすめられました。当日は、本校の小中一貫教育学校としての魅力と、九か年をとにも過ごした絆を、それぞれの飾らない言葉で語りかけました。九年生が一・二年生や五・六年生などにインタビューを行う場面もあり、その微笑ましい光景とともに、参会者からは、「生徒の小中一貫学校への誇りを感じた」「まさしく小中一貫の具体的体験を通じた教育成果」など、感動と賞賛の声

が多数寄せられました。まさに、本校の小中一貫教育の成果を、九年生の具体的な生徒の姿から感じていただけました。

本校は、これまでの実践と成果を糧にして、さらに小中一貫教育を推進すべく、二〇一七年度より、新しい学校種である「義務教育学校」へと移行しました。

本校は、時代とともに移ろう教育課題に対して常にフロントランナーとしての役割を果たしていく学校として存在し続けますので、これまでと同様に、同窓会の皆様方の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ランリユックが新しくなりました

初等部副校長 小原 武

東櫻同窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校教育活動に多大なるご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

皆様ご承知の通り、本校は小中九年間の一貫教育を進めており、学校名も「附属京都小中学校」となっており、今年度で八年目を迎えています。

もともと小学校であった校舎は、現在、初等部の校舎として、おもに一年生から四年生までの子どもたちが学ぶ教室となつています。従来の「小学校」「中学校」という枠を超え、初等部、中等部、高等部という四―三―二制に基づいた九年間を子どもたちは過ごしていきます。そして、私たち教職員は、これまで積み重ねられてきた附属京都小学校・京都中学校のよき伝統を大事にしながらも、全国に先駆けた先進的な教育活動に取り組んでいます。

今回は、そのような新しい流れ

の中で、少しずつ変わっていく附属京都小中学校の初等部から、新しくなったランリユックと筆箱についてお知らせしたいと思えます。

まず、新しくなったランリユックをご紹介します。この新型ランリユックは、学校側の要望をもとに、メーカーに一から作ってもらった本校オリジナルのランリユックです。

大きな特徴の一つは、背中に収納されているクッションを取り出すと、防災頭巾（耐火性）として使用できるようになっている点です。通学途中にもしもの事態が起こった場合はもちろんですが、毎日使うランリユックを通して、子どもたちの防災意識を高めることができます。と考えています。

また、これまで使用していましたが黄色のランリユックに比べて、容量が少し大きく、より丈夫な素材でできています。現在の教科書やファイルはA4判が主流となっており、出し入れがしやすいと好

評です。

全体は落ち着いた黒色で縁取りに黄色のラインが入っています。また、制服についているものと同一デザインで附属京都伝統の「F」マークをもとにしたエンブレム（反射材使用）もついています。

その他、定期入れを付けるためのフックや収納するポケットがあり、前面、側面、肩ベルトに反射テープを付けて交通安全にも配慮しています。

昨年度の一年生から、全員がこの新型ランリユックを持っています。附属京都の子どもといえば黄色いランリユック：というイメージが強いかもしれませんが、これからは、黒に黄色ラインの新型ランリユックもぜひお知りおきいただき、どうぞよろしく願ひいたします。

次は、これも昨年度の一年生から全員が使っている本校オリジナルの筆箱です。丈夫で使いやすいシンプルな筆箱に、本校の校章を付けています。色は紺色と赤色を自由に選べるようにしています。

筆箱を指定品にしたのは、学習に集中しやすい環境を作ることとともに、身のまわりにたくさんものがある時代にあつて、一

つのものを大切に使う子どもを育てたいという願いからです。

ランリユックも筆箱も、希望すれば一年生以外でも購入可能となっております。初等部の四年間、ぜひ大事に使ってほしいと考えています。

このように、附属京都小中学校として、これまでの長い伝統を大切にしながらも、時代に即した新しい取組を進め、よりよい学校作りを目指しています。

東櫻同窓会の皆様方には、今後とも、様々な場所から、附属京都小中学校の子どもたちを温かく見守っていただければと思います。どうぞよろしく願ひ申し上げます。



年次だより

小昭21年卒

京都で最も華やかな街並みと言え、祇園花見小路。建仁寺の少し手前の「料亭・花郷（はなさと）」に、すでに傘寿を過ぎた昭和二十一年卒業の同窓生達二四名が、地元は言うに及ばず、遠くは蝦夷地や越中高岡、又々花のお江戸などか



ら全員自力？で参集した。

特別な用事でもない限り京都人でも滅多に行かない場所だが、平成二十七年一〇月二日と言え、中国の国慶節の真つ最中とあつて中国人観光客で溢れかえり、あの花見小路もまっすぐに歩けない程の混みよう。「まるで中華街みたいやね！」などと言いながら集まった同窓生たち。それでも一步料亭の中にいければ昔はお茶屋だった建物、外の喧騒はどこへやら。

同窓生達は、お互いに顔を見合せるとたちまち七十数年前にタイムスリップして、楽しく又つらかった学生時代の思い出話や、悠々自適の現在の暮らしぶりなどの話に花が咲いた。二次会は祇園石段下の豪華な喫茶店「石」に席を移しお喋りの続きを楽しみ、解散したのはもう秋の夕暮れも間近な時刻だった。

（福地純一郎）

平成二十八年六月八日、卒業七十周年記念同窓会を元島津製作所の建物を使った「フォーチュン・ガーデン」で開催した。竹林に池を配し、銀色の鯉が泳ぐ風景の見える一階宴会室に二三名が集まった。

全員八二〜三歳という高齢者が、関西はもとより、北海道・東京・高岡・愛知などの遠くからも元気に参加した。

卒業時の我々の正式な呼称は「京都師範学校男子部附属国民学校初等科修了生」（国民学校令通りなら）であり、この呼称で卒業した学年はほんの数年前しかいないという、附属小学校の長い歴史の中でもきわめて希有な卒業生である。そこで、「出欠返信はがき」に在籍当時印象に残った思い出を付記してもらったところ、出席者の他に欠席者からも多数が文章参加してくれた。子どもの頃の率直な想い出集を読みながら、先生方や欠席者や物故者のことを思い出しつつ童心に戻って楽しい食事を共にすることができた。

余興には、同級の福地純一郎さんが、能楽の笛の説明のち、典雅な演奏をしてくださり、舞囃子



の空気で祝賀会を賑やかしてくださった。二次会も同じ部屋で約一時間歓談した。記念撮影して散会したのちも、同所屋外の緑陰のテーブル席で歓談を続け、別れを惜しんだのだった。次年度幹事からの「来年も是非元気で来て下さい！」の声に一段と励まされた次第である。この会の状況を瀧野喜八郎さんが写真イラストに纏めてくださった。

（荒木長男）

■ 小昭22年卒・中2期卒

いぬい会だより

私たちは京都師範学校附属国民学校(今の小学校)を昭和二二(一九四七)年に、京都学芸大学附属中学校を昭和二五(一九五〇)年に卒業、戌(いぬ)、亥(い)生まれなので、いぬい会と言っています。丁度学制の変わり目です。卒業したら国民学校が小学校に戻り、中学校は当時新制中学校と言ったように記憶しています。

何れにせよ、全員八十歳代です。今回幹事の都合で適宜開催しています。因みに、今回は平成二九年秋に、幹事長西村宗也君を中心に行います。いぬい会の皆様には夏頃に連絡がありますので、是非ご参加下さい。一部東京でのご意見もあつたようですが、結局京都でやるということです。久しぶりにお元気な皆様にお目にかかれるのを楽しみにしております。お互いに健康には気をつけましょう。

(加藤正美)



■ 小昭24年卒・中4期卒

紫雲会傘寿記念の会(平成二八年)

今回の企画は傘寿記念と銘打ち、母校訪問を組み込んだせいか、出席申込が想定外の四六人に達し、懇親会場を替える一幕もあつた。

さて、当日一〇月二〇日は快晴。三々五々集まったメンバーは、キンモクセイ薫る正面玄関を通過してランチルームへ。ここで、小原副校長から「附属京都小中学校」の現状についてお話を伺い、懐かしい校舎内へ。三階にあつた紫雲閣が無くなっていること、新町通りの東側の景観が様変わりしていることなどに時の流れを感じつつ屋上へ上がる。「昔は無施錠だったから随分ヤンチャしたなあ」の聲が上がる。

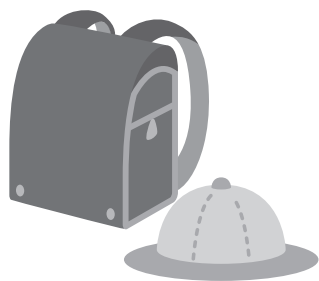
タクシーで移動した会場の「萬重」の席は二列の向かい合わせ、多くの級友の顔を見ながら大きな声の会話が弾む。久しぶりの出席者も多く、そのスピーチに拍手が沸く。空襲警報・玄武プール・自分らの入学検定等の話などが出るうちに、終戦前後の時代にタイムスリップ。今回は、一度東京でやろうということになり、二次会のコーヒー店に向かった。

(迫田恒夫)

■ 小昭25年卒・中5期卒

関東地方に在住の五期メンバーは、毎月、第四水曜日に四水会と称して銀座に集まります。

我々は、昭和一九年に国民学校時代の附属に入学しました。



今月は、一七名が集まり、奥田見隆先生の厳しい体罰や屋上の縁に登り、屋上側に落ちたのを屋上から落ちたと言つて先生を驚かせたことなど小学生時代の思い出話を時を過ごしました。

(小寺洋一)

■ 小昭27年卒・中7期卒

昭和二一年に京都師範学校附属国民学校に入学し、進駐軍からの脱脂粉乳とコッペパンの給食で育った私達も喜寿を迎えました。

平成二七年五月、エキシブ京都

八瀬離宮での同期会には、三九名が出席。和やかで楽しい思い出話など、時の経つのも忘れ、二次会でも笑いがいっぱい、青春にもどった一日でした。

追伸
 今年は五月二五日（木）、ホテルグランヴィア京都、草子の間で行います。

(小林大二)

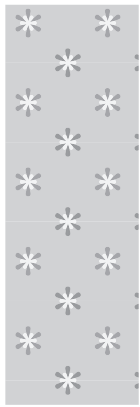


■ 小昭30年卒・中10期卒

今年私たちは七五歳を迎える高齢社会の代表的年度生である。世界最速で人生百年を社会特性にする日本の長寿。

仲間達を窺えば、ゴルフや山登り、ハイキングや合唱、美術の学習、旅行から健康づくりに加えて自分の専門職の長期化を当然のように働いているドクターや弁護士、デザイナーやカメラマンも居る。実家の事業を伝承している経営者や文化人、宗教家も居る。こうして見ると生涯現役は取りたてて言う認識ではなく、現実の中で生涯学習、生涯健康を当然のように理解行動しているようだ。

一方、不幸にも病に倒れ闘病生活を送っている友や、すでに故人となられた方もおられるが、その比率は小さいように思われる。全体でめぐまれた附属の卒業生の人生環境に感謝したいと思っている仲間が多い。



生涯百寿時代の到来は（自分たちひとりひとりととって意味あるもの）という認識を大切にしたいものである。

(谷口正和)

■ 小昭31年卒・中11期卒

私たちは昭和三十一年に小学校を卒業し、今年で六〇年になります。

三月には京都ガーデンホテルにて同期会を開き、恩師お二人と四七名の方が参加されました。また、同好の士が集まり、山歩き、夕食会、野菜づくり、卓球、東部で活動しております。ただ、夕食会の柱である吉岡先生が体調を崩された事、更には、この一年で数名の同期生が亡くなられた事は残念で、とても寂しい思いでおります。

青少年時代を共に過ごし、青年期壮年期はお互い多忙で、疎遠になっていた人もほぼリタイアした今、一堂に会せば、六十年の歳月を一瞬で飛び越えて、再び青少年少女に戻る仲間。言いたい事を言い合える気の置けない友人関係。これは信頼と友情に裏打ちさ

れた人間関係を創ろうとする、附属で長く培われた伝統のお陰と、今更ながら感謝しております。

一期は今後も、昭和のほのぼの感を持って交流を続けて参ります。

(藤井春美)

■ 小昭32年卒・中12期卒

平成二八年一月に、二年毎の同期会がB組幹事により七二歳「何」(ナニ)と銘打って、京都のホテルで開催されました。



当日は恩師の広瀬先生、小林先生、山川先生にご出席いただき、カナダからの出席者も含めて四十二人が集まりました。宴会前にアルコール抜きで自由に近況・趣味・体験等「何」でも話せる場が設けられ、しつかりと頭に残りました。

一九人の物故者全員の御氏名を読み上げた後黙祷、乾杯後団欒し旧交を温めました。その後、三十人弱が二次会に繰り出しました。高齢が少しも自覚できていない七十二歳の面々でした。

次回はA組幹事により、二年後に開催の予定です。

(鶴木孝典・宮川督三)

■小昭33年卒・中13期卒

小・中の恩師三名を含む四〇名が二年ぶりに集い、京都ホテルオークラで平成二八年一〇月二一日に同期会を開催しました。

この二年間一人の物故者を出すことなく、当日の欠席者のメッセージも紹介しながら、二次会までの五時間を楽しく過ごしました。

来年は有志で東京の外国人記者



クラブで再会することを約束し、散会となりました。

(料治公俊)

■小昭34年卒・中14期卒

同窓会は数年ごとに開催。平成二七年六月は、「古希を祝う」と称して五五名が琵琶湖畔ホテルに集合。会員によるスペシャルトーク…

佐々木雅一「老舗の経営術」

諏訪 浩「安心は安全の敵、心



配は安全の友」
松森 彬「遺言は書くべきか、書かざるべきか」

に質問・議論。つづく宴一次会、宴二次会……とエンドレス。

翌日はミシガンでクルーザーグ。写真はミシガン乗船前(最後までの参加は三四名)。五五年ほど前と変わらないところを見つけて喜び合ったりと、短すぎる一泊二日でした。

(諏訪 浩)



■小昭44年卒・中24期卒

平成二八年九月二四日、還暦を迎えるのを期に、今まで京都と桃山の二校で別々に行っていた同期会を全部まとめて行いました。

当日は幹事の手想をはるかに超える一〇九名という参加となり、



昨年九月に同窓会を開きました。我々の学年では夏のオリンピックの年に桃山と合同同窓会を、冬のオリンピックの年に京都だけの同窓会を開いています。

■ 小昭49年卒・中29期卒

さらに先生も一六名の参加をいただき、大盛況でした。
この様子については京都新聞で「旧交歓談」という記事にもしていただきました。

(中西秀彦)



平成二八年三月一九日、日航ブリッセス京都にて、中学校で世話になりました『高橋要先生ご退職お祝いの会』を催しました。

■ 小昭55年卒・中35期卒

冬のオリンピックといえば我々同級生のお嬢さんにフィギュアスケート女子シングルの第一人者宮原知子選手がいます。来年の平昌オリンピックに出場の際は、是非応援よろしく願います。

(雑賀和彦)



ここ数年開催できていなかった小学校昭和五七年卒、中学校三七

■ 小昭57年卒・中37期卒

三四、三五、三六、三七期の有志が一堂に集まりました。高橋先生の叱り方は四学年共通で、あの頃は怖くて怖くてーと。今となっては大爆笑で、当時の懐かしいお話に花が咲きました。
学年を越え、皆が中学時代の様に楽しいひと時を過ごす事が出来ました。

(筑摩 寿)



平成二八年六月一九日土曜日、がんこ高瀬川二条苑にて、『恩師

■ 小昭59年卒・中39期卒

期卒の同窓会を、六月一日(土)に烏丸御池のレストランを借り切って行いました。
今回は約三〇名が参加し、懐かしいスライド写真を写したり、それぞれが小中時代の思い出クイズを出したりして、大いに盛り上がりました。最後は四次会まででした。

(谷垣 賢)

柴田先生を囲む会』を開きました。女性陣の予定を考慮して、今回はお昼の集まりにしました！

みんなに連絡が行き届かずグメンなさい。よかつたら、アマさんに連絡ください！

fuzokushowad6@yahoo.co.jp

(土田敦子)

■小平 11 年卒・中 54 期卒

皆様いかがお過しでしょうか。

平成二八年度に私たちの学年は三〇歳を迎えました。この節目の年に結婚された方もいらつしやれば、お子様が生まれた方もいらつしやると思います。かく言う私も同窓生の結婚式にお招きいただきました。同窓生の結婚式では、子供のころからの長い付き合いがありながらも、まだまだ知らない同窓生の一面を見せてくれるので、いつも楽しみに出席させていただいています。

短い文章で恐縮ですが、皆様が次の十年を無事過ごされますよう願っております。

春先は、気温の変化や環境の変化で体調を崩しやすい時季ですの

で、くれぐれもご自愛ください。

(奥田将史)

■小平 24 年卒・中 67 期卒

六七期生は今、「高校生」という時間の中心にいます。部活動に専念する人、学校行事で青春する人、留学する人…と、様々ですが、刺激的な毎日はあるという間に過ぎていきます。同時に今は、多くの人が勉強に打ち込み始め、自分と向き合い、一生をかけて携わりたいことを見出す時期でもあります。また、日々の学校生活の中からも夢を見つけ出した人もたくさんいます。

ですが、こうやって自分が今向き合っている自分の将来は、中学時代から築き上げられてきたものとも言えます。あの時、大切に胸にしまっておくと決めたものが、今、自分の道標となって新たな「大切なもの」を生み出しています。その意味では、私たちは将来を「見出す」というより、「生み出す」、その過程にいるのかもかもしれません。

(若林悠人)

同窓会への寄付のお願い

常任理事会理事長 中西 秀彦

平素は当同窓会へのご協力まことにありがとうございます。

同窓会会費につきましては、小中同窓会の統合後、入学時の終身会費制度に移行いたしました。しかし、今後、学校の生徒定員減があると伺っており、この終身会費だけでは同窓会の活動がまかなえない事態となることが予想されます。また同窓会としての後輩達の活動の補助、卒業記念品の贈呈などを入学時におさめていただいた終身会費からのみ支出するというのは本来転倒にも思えます。

そこで同窓会の会員の皆様におかれましては、同窓会への寄付をお願いいたしたく存じます。前小学校東櫻同窓会の会費が三〇〇〇円でしたので、一口三〇〇〇円といたしますが、何口でも結構ですので、ご寄付いただけましたら幸いです。

寄付については、同封の振替用紙をご使用いただくか、インターネットバンキングで

ゆうちょ銀行 当座 一〇九店 0015200

宛お振り込みくださいますようお願い致します。

皆様のご理解とご協力をこの場をお借りして、心よりお願い申し上げます。

附 属 の ？ 謎 に 迫 る ！ ？



在校時には気づかないが、卒業して初めて気づく「あれ？これって普通じゃなかったの？」。

当時はどこの学校にも孔雀がいると信じて疑いませんでしたし、能力遠足も普通にみんなやっていると思っていました。また、子供を持つ親になった卒業生からも、幅広く附属の今が知りたいといった声もお聞きしております。

そこで、小学校昭和六二年～平成元年卒、中学校四二期～四四期卒の我々の目線から謎にせまることで、附属の過去から現在を振り返り、我々卒業生が誇りに持っている「附属らしさ」に迫り、結果、読んだ方に当時を懐かしんでもらえるような特集にしたいと思います。

小 学 校 編

謎

その1

孔雀はまだいるの？

いるとしたら何代目？

我々にとっては思い出深い孔雀。果たしていつからいて、今もいるのでしょうか。

調査をすすめてみましたが、いきなり難航しました。「子どものための附属百年史」にも記述がなく、附属の森のなかに禽舎があるため、過去の航空写真でも見分けがつかません。

こうなれば、記憶に頼るしか無い！ということで、卒業生や先生方にお聞きしました。

「私の附属勤務中には孔雀はいなかった。付属幼稚園で孔雀を飼っていたという話を聞いたことがある」(O先生)

「私がカフチの日本人学校から帰国した後に、保護者から寄付を受けたように思う」(T先生)

「私が附属に赴任した時には孔雀は飼われていた。孔雀が逃げた捕まえるのが大変だった記憶がある」(M先生)

「孔雀が逃げたのは、その後もありました」(O先生)

「昭和五一年から附属勤務。初めはいなかったように思うがしばらくして孔雀がいたように思う」。(K先生)

「孔雀がいたら、絵に描いていたと思う。描いてないからいなかったのと違う？」(N先生)

「中庭にあった鳥小屋に孔雀がいた」。(卒業生 五五歳)

お聞きしたお話や附属百年史の記事から推測すると、

①孔雀は寄贈されたものらしい
②昭和四五年木造校舎跡地に附属の森ができる

③昭和四三年～四九年頃に孔雀がいた

④昭和五一年前後はいなかった

⑤昭和五六年～六二年頃には孔雀はいいた

⑥現在も孔雀はいる

⑦何度も脱走している



附属の森の現在

といった事がおぼろげながら推測できます。

しかしながら、何故孔雀なのか？といったことや、肝心の何代目かといったことはわかりませんでした。

なお、現在、附属の森はビオトープと名前を変え、野生動植物の生態観察や、小学生の憩いの場として存在しているようです。

取材に応じて下さった先生方、卒業生の方々、ありがとうございました。

謎

その2

小学校の怪談

在学中、必ずと言っていいほど耳にする怪談話。我々の在学中にはこんな七不思議がありました。

「第二音楽教室への階段が夜中になると十三段になる」

「夜中になると第二音楽教室からピアノの音が…」

「ボイラー室に置いてある鶴の剥製が動き出す」

「ボイラー室に書かれている『SOSタスク』の謎」

「理科室の標本が夜中になると動き出す」

などなど、実際七つだったかは定かではありませんが、子供心に強がったり怖がったり、学校生活のスパイスになっていたのは間違いないと思います。

七不思議がいつの時代にも囁かれる理由としては、『生徒を目の届かない場所に踏み入らせないために、また高価な備品に生徒を近づかせないために、先生が広めている』といったことも大いに考えられますが、やはり子供の大きい好奇心がそれを求めているような気がします。

我々が生まれるより前の話になりますが、今はなき旧木造南校舎では「夜中になると階段が十三段に…」という怪談が囁かれていたそうです。それが昭和四四年秋に取り壊されてからは、第二音楽教室への階段に場所を変えて語り継がれています。皆さんの時代にはどのような学校の怪談があったのでしょうか？



現在も残る当時のボイラー室への階段



謎

その3

ヘレン・ケラーが
附属に来校したって
…本当？

昭和五七年発行の「附属百年史」には「ヘレン・ケラー女史が来校講演」との記載があります。

ヘレン・ケラーは幼時にかかった髄膜炎により聴力・視力を失いながらも、世界各地を訪問し、障害者福祉の発展に尽力した人としてその名が知られています。

ここでは、意外と知られていない来校の事実について調べてみました。

昭和一二年に初来日したヘレン・ケラーは、同三年・同三年と三回来日しています。いずれの来日も官民挙げての大歓迎で、数か月かけて日本各地を回り講演するなど精力的に活動されています。

附属京都小中学校（当時は京都師範学校男子部附属小学校・中学

謎

その 2

現在の下校の音楽は？

我々の年代にとつてはなじみ深い、下校時に流れるビートルズの名曲「ヘイジュード」。最後の方で繰り返される歌詞が聞こえてくると、走りながら校門へと向かった思い出のある方も多いことでしょう。そして今でもこの曲を聴くとなんとなく焦りを覚えるという声も…。

「ヘイジュード」のシングル発売は一九六八年。複数の同窓生の話によると、一九七〇年代初頭にはすでに下校時の曲として採用されていたとのこと。何故「ヘイジュード」なのか。正確なことは今となってはわかりません。

しかし、日本中が熱狂した一九六六年のビートルズ初来日の影響がないとは言えないでしょう。

なんとそれから四十年以上！今も下校時の「ヘイジュード」は受け継がれていると聞き、驚きました。当該年代に「下校時の音楽は？」と聞いて即答できない人は少ないと思います。

ところが、他校に通っていた生徒さん達に「下校時の音楽」のこ

とを聞いてみても、「忘れた」「あつたかな？」という人が多いです。

「ヘイジュード」は何故こんなにも我々の印象に残っているのでしょうか。

一つには、生徒全員が部活に所属することが義務付けられているということが挙げられるかもしれません。部活動をしていると下校の時間が遅くなりがち。自然、音楽に追われることも多くなったと思います。

もう一つは、登下校の管理が生徒自身で行われていたからということが考えられます。登下校時、服装の乱れや遅刻をチェックしていたのは風紀委員会に属する生徒です。脇に先生は立っているものの、あくまでも主軸は風紀委員の生徒。生徒の自主、自律、自治の精神を持つ附属の校友会にあっては、自分たちで決めたことは守るという意識が自然と身に付いたのではないのでしょうか。結果、下校時間の厳守が徹底され、そこで流れる音楽が印象深く残っているのかもしれませんね。

さて、取材をすすめる中でふと

疑問に思ったのが、「ヘイジュード」の前は何が流れていたのだらうか？ということでした。ご存知の先輩がおられましたら、是非、六月の「同窓生のつどい」で教えて頂ければと思います。

* * * * *

さて、五つの謎について調査をしてみました。結果的には、完全に謎が解けたものは少なかったのですが、この中で感じたことは、「ものすごい歴史がある」ということと「自由だからこそ厳しさ」と自立の精神があった」ということでした。

小学校時代を思い出しても、学校側から「勉強しろ！勉強しろ！」と言われた記憶もなく、自由のびのびと過ごした記憶があります。先の記事にもありましたが、中学校時代においては、校友会組織を中心とした自治の原理の中、抑えつけられて行動するのではなく自ら考えて行動することを学びました。中学校時代の思い出深いエピソードとしては、当時、自動

販売機で売っていたのは牛乳だけだったのですが、牛乳を飲めない生徒が、「牛乳以外も取り扱って欲しい」と議題を提出。全校集会で、「牛乳以外を許す」となると、収拾がつかなくなる。「飲めない人はないがしろにされて良いのか。」など、真剣に討議されていたのを思い出します。その結果かどうかはわかりませんが、現在は牛乳以外も取り扱う自動販売機が置かれています。

今、大人になり考えてみると、先生方は生徒に自治を任すことによつて、かなりの忍耐力を要されたでしょうし、生徒のサポート等、教鞭をとる以外の仕事もたくさんあったのではないかと思います。本特集記事の作成にあたり、ご多忙中、附属史について丁寧にご指導と資料提供をしてくださった迫田先生と垂井先生に深く感謝いたします。

そして、趣旨を理解し、快くご協力いただいた卒業生の皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございます。

(青松竜好)



東部支部よりご挨拶

東部支部長 岸田 俊昭

昨年、山脇豊次支部長（二四年卒）から重責を引き継ぎました。

堂々とした正面玄関の小学校。正面玄関に車寄せがあつた中学校。校舎や恩師、同級生への思い出は、今も走馬燈のように思い出されます。中学校卒業時に附属高校が新設されて一期生になり、京都と桃山の生徒が一緒になりました。校舎もなかったため、旧中学校の校舎をそのまま使用することになりました。高校生になったという気がしました。

私的にありますが、大学卒業後は旅行会社に勤務して附属高校の修学旅行をお手伝いさせていただき、後輩と楽しく思い出を創ることができました。その後、東京で教員の道へ進み、東京で着任した最初の小学校には同窓会がなかった（他ありませんでした）が、名簿を一人で百年分作成するの二年掛かりました。その後、卒業生から同窓会を開催したいか

らとの問い合わせが数件来て、苦労が報われました。教員中、インドネシアやオマーンへも文部科学省から派遣され、異文化を理解出来るようになりました。

個人情報流出を防ぐために、同窓会名簿を発行しなくなり、誰がどこに勤務しているかわからなくなりりましたが、テレビで東櫻会とわかる会員が活躍している場面を何人も見かけるようになり、誇らしく思っています。

東櫻会東部支部として、総会開催だけでなく、各学年の同窓会をも支援していきけるように、活発な活動をしていきたいです。

来年は東部支部の総会を、岡部陽二氏（二二年卒）のご厚意で、東京駅丸の内口から徒歩二分、大正九年建立の厳かな『日本工業倶楽部』で行います。ご出席を頂き、楽しい一時を過ごしましょう。

名簿委員会よりお願い

筑摩 寿・梅垣 智子

同窓会の諸先輩並びに皆様、こんにちは。今回も皆様のお手元に東櫻同窓会の会報が届き、目を通していただけることを嬉しく思っております。懐かしい母校の様子や、恩師や同窓生の近況などに、しばし思いをはせておられることと思います。

名簿委員の方々にお願いし、返送していただいたデータで名簿の訂正を行いました。

各学年の名簿委員の方々には毎回お手数をおかけしており、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

名簿ですが、小中同窓会の名簿を一つにする作業も大変な作業でした。住所の表記の文字や、番地の書き方（一〇の一と一〇一）が違っただけでも、二重に名簿が上がつてきました。これまでの発送でかなり改善することが出来ました。まだ二通届くようなことがございましたら、お手数ですが、同窓会までお知らせください。よろしくお願いいたします。

毎回、会員の皆様に届けられなかった皆さんの会報が送り返されてきて、とても残念に思っております。今回も、昨年の一月末から、恒例の名簿訂正を各学年の

住所変更されても、今は携帯やメールでのやり取りでつながります。ですが、住所が分からなければ、会報をお届けすることは出来ません。未配達の原因の多くは転居先不明ですが、マンション名や町名が省略されていて配達されないこともあります。そこで、会員の皆様にお願ひです。住所変更などがございましたら、マンション名や町名を略さずに正しく、各学年の名簿委員の方、または東櫻同窓会までお知らせください。

今後、一人でも多くの方々に東櫻だよりをお届けできますようにご協力をよろしくお願いいたします。

堀場雅夫前副会長を偲んで

平成二七年七月一四日ご逝去

堀場雅夫氏におかれましては、現東櫻同窓会統合前の附属京都小學校の東櫻同窓会の副会長として、長きにわたりご尽力いただきました。副会長ご就任前には、東櫻同窓会総会でご講演いただいたこともございました。

また、附属京都小學校、中學校の統合に伴う両同窓会の統合時にも多大な協力をいただきましたことを感謝しております。これからも、東櫻同窓会をご指

導いただけると考えておりましたし、さらなるご活躍を期待させていただきます。誠にありがとうございました。誠に残念でなりません。心からご冥福をお祈り申し上げます。

なお、堀場雅夫氏が、平成二八年一〇月一五日に、『京都市市民栄誉賞』を受賞されましたことを併せてお知らせさせていただきます。



故 堀場雅夫氏

恩師のご消息

長岐 寿郎先生

平成二八年一〇月ご逝去

昭和一九年四月から三三年三月まで附属京都小學校にご勤務

吉野由美子先生

平成二六年六月ご逝去

平成一一年四月から一五年三月まで附属京都小學校にご勤務

池本 博行先生

平成二八年三月ご逝去

平成六年四月から平成二一年三月まで附属京都中學校にご勤務理科をご担当

心から哀悼の意を表します。

理事会開催のお知らせ

当同窓会では、三年ごとに理事会を開催して常任理事を互選することが規約に定められております。常任理事は、実際に、当同窓会全体の運営実務を担う重要な役割です。

下記の要領で、常任理事選出のための理事会を総会前に開催いたしますのでご参加ください。

記

東櫻同窓会理事会

議題…常任理事の選任

日時…平成二九年六月二四日(土)

午後三時より

場所…京都ホテルオークラ

三階 曲水の間

編 集 後 記

私たち三学年が幹事役を引き継ぎ、早くも二年半が経過しました。私たちは、一昨年の春に三学年合同の同窓会を開催しました。会の趣旨は、「より多くの協力者を得て、幹事役としての結束を固める」ことでしたが、実行委員にとっては、「同窓生のつどいに向けたリハーサル」という意味合いもありました。実際、「東櫻同窓生のつどい」に向けた準備が本格的に始まる前に、三学年の実行委員が協働してイベントを開催したことは大きな意義があったと思いますし、「先輩後輩」という関係の距離感も、集まる機会を重ねることに解消されていたように感じます。

「東櫻同窓生のつどい」の開催も、残すところあと二ヶ月ほどになりました。当日お越しになる皆様に有意義な時間を過ごしていただけるよう、再度気持ちを引き締め取り組みたいと思います。

最後に、ご寄稿、編集にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。
(編集委員長)



ピアニスト ハタヤテツヤ氏のご紹介

Hataya Tetsuya

ハタヤテツヤ（小昭和 63 年卒 中 43 期卒）

Piano, Keyboard, Compose

「皆様こんにちは。そして大変ご無沙汰致しております。
この度ご縁あって同窓会での演奏を拝命いたしました。
短い時間ではありますがお楽しみいただければ幸いです。
久々の再会を楽しみにしております。」

プロフィール

1975 年 4 月 14 日京都出身。
幼少の頃よりクラシックピアノを始める。

大阪音楽大学にて Hank Jones、石井彰、今出哲也各氏にピアノを師事。

卒業後「Ego-Wrappin'」のピアニスト／キーボーディストとしてキャリアをスタートさせる。

2004 年 インストゥルメンタル・ジャムバンド「grooveline」に加入、ビクターエンタテインメントより「one minute」、「the missing key」の 2 作品をリリースする。

2006 年 同バンド脱退後はピアニスト／作編曲家として現在までに様々なレコーディング、ツアーに参加。

近年の主な参加作品：日本 TV 系ドラマ「視覚探偵旅人」、映画「イニシエーション・ラブ」他



「東櫻同窓生のつどい」のご案内

三年に一度の同窓生のつどいを、下記の要領で行います。

今回は、同窓生でピアニストのハタヤテツヤ氏に、ライブ演奏をお願いしております。

恩師の先生方や旧友との親交を深め、思い出に残る一日としていただければ、幸甚に存じます。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時

平成 29 年 6 月 24 日 (土)

受 付	午後 3 時より	4 階	暁雲の間前
同窓会総会	午後 3 時 30 分より	3 階	曲水の間
懇 親 会	午後 4 時 15 分より	4 階	暁雲の間

場 所

京都ホテルオークラ

京都市中京区河原町御池東北角

TEL (075)211-5111

式次第

同窓会総会	3 階	曲水の間
懇親会	4 階	暁雲の間

- ・ 恩師ご紹介
- ・ ハタヤテツヤ ライブ演奏
- ・ 本誌特集企画「附属の謎に迫る」
- ・ 福引き

会 費

一 般	10,000 円
敬 老 会 費	7,000 円
(昭和 24 年 3 月以前にご卒業)	
大学生以下	7,000 円



※準備の都合上、**5 月 21 日 (日)** までにご返信いただきますようお願い申し上げます。

※ご出席の方は、同封のはがき (出席回投票)、もしくは「東櫻同窓会出欠連絡フォーム」(URL <https://goo.gl/CFOJw5>)にてお知らせください。下記 QR コードからもアクセスできます。

東櫻同窓会出欠連絡フォーム▶▶▶

